

<報道関係各位>

2017年7月19日

一般社団法人 日本化学工業協会

2017年 日化協LRI 研究報告会、8月25日(金)に開催 ～化学物質の安全性評価に係る最新の研究動向について議論～

一般社団法人 日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：石飛 修（住友化学㈱会長）、以下「日化協」）は8月25日(金)、「2017年 日化協LRI 研究報告会」を東京証券会館ホール（東京都中央区日本橋茅場町）にて開催いたします。

LRI(Long-range Research Initiative:長期自主研究活動)は、日米欧の化学工業会が人の健康や環境に影響を及ぼす化学物質の影響を評価する優れた研究を長期的に支援する活動です。日化協 LRI では、化学産業が抱える喫緊の課題や社会のニーズに応える研究テーマを広く皆様に紹介するとともに、化学物質安全に関連する最新の話題を共有する場として研究報告会を毎年開催しています。

今年の報告会では、現在採択中のLRI研究15課題の進捗状況と成果について紹介する「ポスターセッション」に加え、午前の部で、「LRI 2017国際ワークショップ参加報告」および「日化協LRI賞受賞記念講演」を、午後の部で、「毒性予測の今後」と題してシンポジウムを開催し、化学物質の毒性予測手法の研究動向を紹介するとともに、解決すべき課題などについて広く議論することとしています。

（詳細は、添付の「2017年 日化協 LRI 研究報告会プログラム」および「参考資料」を参照ください。）

※日化協LRI賞とは…“化学物質が人の健康や環境に与える影響に関する評価”について優れた研究実績をあげた若手研究者を支援するために、日本毒性学会および日本動物実験代替法学会のご協力の下で授与する賞です。

【開催概要】

開催日時：2017年8月25日(金) 9:30～17:15（開場9:00）

場所：東京証券会館 8階ホール（TEL:03-3667-9210）
東京都中央区日本橋茅場町1-5-8（東京メトロ茅場町駅8番出口）

参加申込：以下、URLよりお申し込みください。（参加は無料です。）

日化協セミナー総合サイト <http://www.jcia-seminars.org/>

申込期限：2017年8月22日(水) 定員300名

■午前の部：LRI国際ワークショップ報告および日化協LRI賞受賞記念講演

- ・LRI 国際ワークショップ(2017年イタリア開催)報告
- ・「日化協LRI賞」受賞記念講演
 - ・千葉大学大学院薬学研究院 小椋康光先生
 - ・神戸大学医学部附属病院 臨床研究推進センター 大森崇先生
 - ・静岡県立大学薬学部 吉成浩一先生

■ポスターセッション(採択中 LRI 研究15課題)

■午後の部：「毒性予測の今後」をテーマに、シンポジウムおよびパネルディスカッション

本シンポジウムでは、化学物質の毒性評価における予測手法活用に関連する国内外の検討状況について、様々な観点から4名の先生にご講演いただきます。また、講演後にパネルディスカッションを予定しており、毒性予測手法活用の方向性や克服すべき課題などについて幅広く、かつ深く掘り下げて議論をしていただきます。

《本件に関するお問い合わせ先》

一般の方から：（一社）日本化学工業協会 LRI事務局 仲井、田所、小野 TEL:03-3297-2575

報道関係者から：（一社）日本化学工業協会 広報部 鎌田、永井 [TEL:03-3297-2555](tel:03-3297-2555)

<2017年 日化協LRI 研究報告会プログラム>

日時： 2017年8月25日(金) 9:30~17:15 (開場9:00)

会場： 東京証券会館 8階ホール

(東京都中央区日本橋茅場町1-5-8 [東京メトロ茅場町駅8番出口 Tel:03-3667-9210])

プログラム(講演タイトルは仮題を含みます)：

敬称略

午前の部	
9:00	開場
9:30- 9:35	開会挨拶 渡辺 宏 (一般社団法人 日本化学工業協会 専務理事)
9:35-10:00	「LRI 2017 国際ワークショップ "Fit-For-Purpose Exposure Assessments for Risk-Based Decision Making" 参加報告」 武居 綾子 (LRI顧問会議委員: 有限会社 イカルス・ジャパン取締役社長)
	日化協LRI賞受賞記念講演
10:00-10:30	「金属化合物の新規化学形態分析法の構築と毒性発現機構解明における応用」 【2016年度 日本毒性学会：日化協LRI賞】 小椋 康光 (千葉大学大学院 薬学研究院 教授)
10:30-11:00	「コメットアッセイ JaCVAM 国際バリデーション研究における中央値に基づく再解析の結果」 【2016年度 日本動物実験代替法学会: 日化協LRI賞】 大森 崇 (神戸大学医学部附属病院 臨床研究推進センター 特命教授)
11:00-11:30	「薬物代謝及び核内受容体研究を基盤とした化学物質の肝毒性発現機序解明と評価予測系開発」 【2017年度 日本毒性学会：日化協LRI賞】 吉成 浩一 (静岡県立大学 薬学部 教授)
11:30-13:30	ポスターセッション ※展示は 16:00 まで 詳細は<参考資料>をご参照ください
午後の部 シンポジウム：テーマ「毒性予測の今後」	
13:30-13:45	「毒性予測に対する産業界の期待」 石井 一弥 (一般社団法人 日本化学工業協会 常務理事)
13:45-14:15	「化学物質の生態毒性予測の動向」 古濱 彩子 (国立研究開発法人 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 主任研究員)
14:15-14:45	「OECD の AOP プロジェクト及び免疫毒性に係る AOP の作成」 久田 茂 (あすか製薬株式会社 創薬研究本部)
14:45-15:15	「毒性発現経路および化学構造情報を指標としたヒト有害反応の予測法の開発」 植沢 芳広 (明治薬科大学 臨床薬剤学研究室 准教授)
15:15-15:45	「毒性関連ビッグデータを用いた人工知能による次世代型安全性予測手法の開発」 船津 公人 (東京大学大学院 工学系研究科 教授)
15:45-16:00	休憩
16:00-17:10	パネルディスカッション (質疑応答10分含む) 毒性予測の今後: 予測手法活用の方角性、克服すべき課題について 座長: 吉成 浩一 (静岡県立大学 薬学部 教授) パネリスト: シンポジウム講演者 [上記5名] 高橋 由雅 (豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 教授)
17:10-17:15	閉会挨拶 岩本 正和 (LRI顧問会議議長: 中央大学 研究開発機構 教授)

<参考資料>

■LRI 第5期 指定課題および採択公募課題(ポスターセッション発表テーマ)

敬称略

課題番号	研究課題	氏名	所属
13_S01-01-4	iPS細胞を利用する化学物質のがん幹細胞誘導性評価技術の開発	妹尾 昌治	岡山大学 大学院自然科学研究科
16_S01-01-2	化学物質の有害性予測および環境リスク評価・管理システムの高度化 (副)有害性予測のための高度基盤ツールの開発と予測の精緻化	林 彬勲 高橋 由雅	産業総合研究所 安全科学研究部門 豊橋技術科学大学 情報・知能工学系
16_S01-02-2	新規 Lys および Cys 誘導体を用いた皮膚感作性予測法 (amino acid derivative reactivity assay; ADRA)	笠原 利彦	富士フイルム株式会社
15_S03-01-2	化学物質の呼吸器感作性 in vitro 評価法の開発	善本 隆之	東京医科大学 医学総合研究所免疫制御研究部門
17_S05-01	ディープフェノタイピング法に基づく化学物質の生物作用分析システムの開発	楠原 洋之	東京大学 大学院薬学系研究科
13_PT01-01-3	ゼブラフィッシュの神経分化を指標とする化学物質の発達神経毒性評価手法の開発	西村 有平	三重大学 大学院医学系研究科薬理ゲノミクス
15_PT01-01-2	エストロゲン作動性化学物質に対する新規 in vivo スクリーニング試験系の構築と低用量影響評価	中西 剛	岐阜薬科大学 衛生学教室
16_PT01-01	化学物質の変異原性とその毒性メカニズムも理解できる、ヒト遺伝子破壊細胞ライブラリーを利用したバイオアッセイの開発	武田 俊一	京都大学大学院 医学研究科 放射線遺伝学
16_PT01-02	毒性発現経路および化学構造情報を指標とした薬物および化学物質に起因するヒト有害反応の予測法の開発	植沢 芳広	明治薬科大学 臨床薬剤学研究室
17_PT01-01	In vitro 全身毒性試験チップデバイスの開発	福田 淳二	横浜国立大学 工学研究院 細胞組織工学研究室
17_PT01-02	血中 cfDNA を用いた化学物質ばく露影響を全身的に予測するスクリーニング法の開発と胎児期ばく露影響予測への応用	宮崎 航	群馬大学大学院 医学系研究科 医科学専攻応用生理学分野
17_PT02-01	機序に基づくカーボンナノマテリアルの有害性と発がんリスク評価法の確立	津田 洋幸	名古屋市立大学 津田特任教授研究室
12_PT03-01-4	セリンプロテアーゼインヒビター欠損細胞を用いた化学物質過敏症の高感度 in vitro 評価系の開発 副題:呼吸器アレルギー検出のための細胞を用いた in vitro 系の検討	中村 晃	東北医科薬科大学 医学部免疫学教室
16_PT04-01	環境中の化学物質のモニタリング情報を管理するプラットフォーム(ChemTHEATRE)の構築	仲山 慶	愛媛大学 沿岸環境科学研究センター
13_PT05-01-3	メコン川流域における複合的な環境汚染に対する新規網羅的モニタリングシステムの開発とその実効性の検証	平田 収正	大阪大学 大学院薬学研究科